

2019 年度 A O 選抜 文学部 コミュニケーション学域
「課題論文方式」

【選考講評】

1. 実施状況

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
コミュニケーション学域	6	5	3

2. 第一次選考<ES(エントリーシート)と課題レポート・志望理由書等>

(1) 評価ポイント

第一次選考では、調査書、評定平均値、高校での活動と学びについての資料とエントリーシートを対象に審査を行いました。エントリーシートの内容については、コミュニケーション学域への志望動機や入学後の目標、将来の進路について、過去の活動や実績をふまえて明確かつ説得的に記述できているかを評価しました。

(2) 解答状況

エントリーシートはいずれも強い意欲を持って書かれていましたが、志望動機や入学後の目標について、これまでの活動や大学のパンフレットに記載されている文言を並べただけのような印象を与えるものもいくつかありました。自分のこれまでの活動や体験が、コミュニケーション学域入学後のアカデミックな学びに具体的にどのようなつながるのか、また、そうした学びが将来の目標にどう結びつくのか、考えを深め、自分の言葉で言語化していく姿勢が望まれます。

3. 第二次選考

(1) 評価ポイント

課題論文の内容における評価のポイントは次の3つです。

- ① 課題文の内容や筆者の主張を的確に理解しているか。
 - ② 課題で指示された問題について、自分自身の言語表現活動や身の回りの言語的な事象と結びつけてとらえることができているか。
 - ③ 自分の言葉で意見を明確に述べるできているか。
- ※ これ以外にも、表現・表記において、論文として適切な語彙選択、段落意識も含めた文章の展開、主張を支えるための無理のない論述展開を作ることができているか、という点も評価に含めました。

(2) 解答状況

評価ポイント①については、課題文の具体例を手がかりに文章の概要を概ね正しく読み取っていました。評価ポイント②でも、各自、課題の指示である、本文中の「再という行動、再創造という考え方」の意味することに添った具体例を示しなおすという努力は行っていました。ただ、その具体例の選び方やそこからの議論の深め方に、個人差が見られ、説得力を持つ解答と持たない解答に分かれました。おそらくそこに、課題文の理解度の違いが出たのではないかと思います。評価ポイント③については、

ポイント②とのつながりが明確であるもの、つまり、自身の表現体験と本文とのつながりを十分理解したうえで「再創造」という筆者の主張を自分の言葉できちんと解釈できているものには説得力がありました。

表現・表記では、使用語彙は概ね適切でした。ただ、文章の構成に対する意識が不十分なものや、論の展開にずれが生じているものがありました。

(3) 試験（面接）内容

まず、本学域へ進学したい理由について、これまでの表現活動経験や将来の展望、大学で具体的に追究していきたいことなどをもとに語ってもらいました。また、大学で学びたいことが自分の将来設計にどう関わるかを説明してもらいました。そのうえで、エントリーシートをもとに個別の質疑応答を行いました。

課題論文に関して、それぞれの受験生の提示した具体的事例や意見をもとに、個別に質疑応答を行い、その回答に対する面接官の疑問に対し、どれだけ説得的に口頭で説明できるかを評価しました。

(4) 出題（面接）の意図

学問に対する積極性、真摯な態度、目的の明確さとそれに対するこれまでの取り組み、思考の論理性、自分の言葉で考えや思いを述べられるか、さらに「伝えたい」という意欲などを見ています。とくに課題論文に関しては、抽象的なテーマを具体化してわかりやすく論じる力と、またその逆に、事例を一般化して他の事象や領域に発展・応用させる力を見ました。

(5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

これまでの音声や文章に関わる表現活動を、大学におけるアカデミックな実践や理論の学習のなかでどのように活かし展開するのか（できるのか）ということをしっかり考えてみましょう。また、大学での学びが、自分の将来の目標や生き方にどうつながるのかということもイメージしながら勉強を重ね、さまざまな行動に移してもらいたいと思います。

大学の学びは高校までの 9 教科の枠に収まるものではありません。広い視野で物事をとらえることができるよう、幅広く本を読み、人の話に耳を傾け、さまざまな機会をとらえて思考力や想像力、表現力を楽しみながら鍛えてください。

以上